

2020 年度の取り組み

フードバンク・生活困窮者支援

【フードバンクふじのくにの活動支援】

1 貧困をなくそう



県生協連は、認定 NPO 法人フードバンクふじのくにの構成団体として運営に参画しています。会員生協に対しフードバンク活

動への参加を呼びかけ、夏のフードドライブにはユーコープ、静岡県労働者共済生協（こくみん共済 coop）が参加し、冬のフードドライブには新たに浜北医療生協が参加しました。また、フードドライブ後の食料品仕分けボランティア（写真）には 33 名（3 生協）の申し込みがありました。



（会員生協および関係団体の取り組み）

- パルシステム静岡は備蓄食料品買い替え時のフードドライブを行いました。
- ユーコープは 2020 年度の事業収益から地域社会への還元として 400 万円、また組合員から寄せられた「ユニセフ・平和・フードバンク募金」から 286 万円を寄付しました。
- 静岡県労働者共済生協（こくみん共済 coop 静岡推進本部）は「たすけあいキャンペーン」として協力団体での保障の見直し件数に応じて寄付金として計上し 170 万円を寄付しました。
- 静岡県教職員生協は女性部共同購入の収益から 12 万 8,000 円を寄付しました。
- 静岡県協同組合間提携推進協議会ではフードバンク活動の趣旨に賛同し、会費から 20 万円を寄付しました。

【コロナ禍への対応】

1 貧困をなくそう



学生が出席できないため食堂等の経営状況が極めて厳しい静岡大学生協に対し、2020 年度会費の減免を行いました。

「3 つの密（密閉・密集・密接）」を避けるため県生協連の機関会議の開催形態を見直しました。理事会は「広い会場で換気などに留意して開催」「書面による『みなし理事会』」「WEB 併用開催」の方法で開催しました。第 55 回通常総会では書面による議決についてもご案内し、実出席 7 名・書面議決 43 名での開催となりました。

静岡県立大学が進めるコロナ禍での学生支援の取り組み

「たべものカフェ」に賛同し缶詰（CO・OP いわし蒲焼）100 個を寄贈しました。缶詰は学生に配られました。



⑥（写真）

行政との連携・エシカル消費

【静岡県くらし・環境部県民生活課との連絡会】



県行政との協力・連携を進めることを目的に7月に開催しました。県からは消費者支援・消費者教育、エシカル消費推進事業について報告をいただきました。各会員生協からは

コロナ禍での事業と活動の状況について報告し、相互交流しました。



【エシカル消費推進事業（プラス・エシカル）への参加】

プラス・エシカルロゴマークを会員生協機関紙（ユーコープ、パルシステム静岡）や店舗（ユーコープ）で宣伝しました。また、静岡県庁東館ロビーにてコープのエシカル商品を展示し、来庁者にご覧いただきました。



【ふじのくに COOL チャレンジ クルポへの参加】

静岡県、各市町、民間企業や諸団体で構成する地球温暖化防止活動「ふじのくに COOL チャレンジ クルポ」への参加について会員生協の参加を呼びかけました。ユーコープでは店舗のリサイクルボックスに新たにポイントスポットが設置され、リサイクル品を持参した組合員がクルポポイントを獲得できるようになりました。



防災・減災

【防災・災害時対応】

「大規模自然災害等緊急時対応計画」を地震災害だけでなく豪雨災害等も想定し事前準備について加筆・修正し、「手順書」を策定しました（P. 31 参照）。また、手順書に基づき通信訓練を実施しました。

【被災地支援活動】



静岡県ボランティア協会が呼びかける「岩手県被災沿岸部に“静岡のみかん”をお届けします」にちよ、みかん10箱を寄贈しました（写真）。寄贈したみかんはクリスマスに大槌町・釜石市・陸前高田市・山田町・遠野市の仮設住宅で生活されている方々や幼稚園、保育園、福祉施設などに届けられました。

「TOMOSHIBI プロジェクト-東日本大震災10年の集い-」に静岡県ボランティア協会等とともに実行委員会に参加し、県内5か所で映画「風の電話」を上映しました。



2020年度 行政及び日本生協連、諸団体関係の各種委員一覧表

	審議会・委員会等	氏名	役職名
県行政関係	静岡県消費生活審議会 委員	稲垣 滋彦	会長
	静岡県水産振興審議会 委員	稲垣 滋彦	会長
	しずおか食の安全推進のための意見交換会 委員	稲垣 滋彦	会長
	静岡県食と農が支える豊かな暮らしづくり審議会 委員	中村 範子	常務理事
	静岡県多面的機能支払交付金第三者委員会 委員	中村 範子	常務理事
	ふじのくに消費者教育推進県協議会 委員	中村 範子	常務理事
	ふじのくに生物多様性地域戦略推進会議 委員	中村 範子	常務理事
	静岡県ごみ減量・リサイクル推進委員会 委員	中村 範子	常務理事
	しずおか地産地消推進協議会 委員	中村 範子	常務理事
	しずおか男女共同参画推進会議 委員	望月 美可	常務理事
	障害を理由とする差別解消推進県民会議 委員	望月 美可	常務理事
	浜松市消費者教育推進地域協議会 副会長	中村 範子	常務理事
	日本生協連関係	全国職域生協協議会 運営委員、購買事業小委員会 委員	藤崎 稔
中央地連運営委員会 委員		飯田 知男 中村 範子	専務理事 常務理事
中央地連職域生協協議会 委員長		藤崎 稔	理事
中央地連県連活動推進会議 委員		飯田 知男	専務理事
中央地連大規模災害対策協議会 委員		山田 和仁	事務局 長
諸団体関係	静岡県協同組合間提携推進協議会 副会長	稲垣 滋彦	会長
	同 委員	飯田 知男	専務理事
	同 副幹事長	望月 美可	常務理事
	静岡県経済連事業審査委員会 委員	中村 範子	常務理事
	静岡県労働者福祉協議会 副理事長	稲垣 滋彦	会長
	同 幹事	飯田 知男	専務理事
	静岡県労働者福祉基金協会 理事	飯田 知男	専務理事
	フードバンクふじのくに 副理事長	稲垣 滋彦	会長
	消費者問題ネットワークしずおか 幹事長	中村 範子	常務理事
	原水爆禁止静岡県平和行進実行委員会 代表委員	稲垣 滋彦	会長
3・1ビキニデー静岡県実行委員会 代表委員	稲垣 滋彦	会長	
同 運営委員	望月 美可	常務理事	

協同組合間連携、諸団体との協同・連携

【静岡県協同組合間提携推進協議会（農協・漁協・森林組合との協同・連携）】



協同組合間
の連携を図る
とともに協同

組合の価値を高め地域社会の発展に寄与することを目的に、女性交流集会や農業体験企画、安倍川流木クリーンまつりに取り組みました。

女性交流集会には県西部を中心に農協、漁協、生協の女性組合員等 26 名が参加し、オンラインで各団体の活動を報告し交流しました（写真）。

農業体験企画は、県内の特産物の担い手づくりを視野に入れた企画として J A 静岡中央会との協同により開催し、県中西部を中心に栽培されている海老芋の土寄せ・収穫体験を事務局レベルで実施しました。

新型コロナウイルス感染症の影響から「富士山麓育林活動」「水生生物観察会」「協同組合学習交流会」は中止となりました。



【労働者福祉事業団体との協同・連携】



静岡県労働者福祉基金協会が実施した ALWF*ゼミの実行委員会に参加しました。マネージャーコースに役員 4 名と事務局長が参加し、「福祉事業団体職員アンケート結果報告（講師：富田晋司氏）」「NPO 活動の変遷と NPO の今後をとらえる視点（講師：日詰一幸氏）」について学びました（写真）。その他に、ALWF 自主研究会（10 年後の高年齢者の働き方：勤労者の人生設計と企業・労働組合の関わり）、NPO パートナー委員会に委員を派遣しました。



労福協だより（2020 年春号、夏号、秋号、2021 年新春号）に県生協連の取り組みを掲載しました。

*ALWF = 公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会

【消費者問題ネットワークしずおかの活動】



県生協連が事務局を務める消費者問題ネットワークしずおかでは、県の委託事業「令和 2 年度消費生活相談員資格取得支援講座」を運営しました。今年はビデオ講座（YouTube 限定配信）となりました。消費生活相談員資格試験には 4 名が合格しました。



平和・核兵器のない世界に向けて

【ヒバクシャ国際署名の取り組み】



静岡県生協連も呼びかけ人として参加する「ヒバクシャ国際署名をすすめる静岡県連絡会」は、国連への署名の提出期限である9月にまとめの総会（代表者会議）を開催しました（写真）。2018年4月の結成からの活動を振り返り、県内での署名推進のための諸団体の連携が進んだことなどの前進点を参加者全員で確認しました。署名は県内全体で170,362筆（うち生協関係では72,849筆）が寄せられました。



【ヒロシマ平和の旅】

毎年8月に実施している「ヒロシマ平和の旅」は中止となりましたが、日本生協連「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」がWEB開催となったため、視聴参加を呼びかけました。

【3・1ビキニ事件を伝え核兵器廃絶を求める取り組み】



人類初の水爆犠牲者となった第五福竜丸無線長・久保山愛吉さんを悼み核兵器廃絶を求める取り組みとして、

平和行進、9・23焼津行動、3・1ビキニデーを静岡県原水爆被害者の会等の諸団体とともに開催しました（写真）。

コロナ禍のため平和行進は中止となり、県事務局メンバーによる静岡市内での街頭宣伝（5/24）と愛知県との引継ぎ式（5/31）を行いました。9・23焼津行動は墓前の誓いの集いのみが規模縮小で開催されました。3・1ビキニデーは墓前祭が規模縮小で開催されましたがビキニデー集会はオンラインで開催され、全国612ポイントから視聴参加がありました。県生協連は、墓前に供える菊花（9・23焼津行動）とバラ（3・1ビキニデー）を手配しました。

